

I. 事業の概要

本財団の目的を達成するため、2010年度は次の事業を行った。

1. 中部広域圏の産業の活性化及び整備に関する調査研究

(1) 中部圏地域間産業連関表の開発

中部圏における広域的課題の分析・検討には、地域全体をカバーする統計の整備が不可欠との認識のもと、2009年度に「CIRAC 統計研究会」（座長：中京大学経済学部山田光男教授）を設置し、2010年5月からは財団内に新設した「経済分析・応用チーム」が地域間産業連関表の作成を進め、2011年4月に「中部圏地域間産業連関表(2005年版)」として公表した。

今回の開発により、地域間・産業間の相互依存関係の計量的把握や、各種プロジェクトの整備・利用に関わる広域的な経済波及効果の計測・分析を行うことが可能となった。今後は、地域内の産業構造の分析や様々な応用研究に活用していくこととしたい。

(2) 世界的都市間競争の中における中部圏の将来像に関する調査研究

世界的な規模での都市間競争が加速する中、我が国の大都市圏制度も新たな役割が求められている。当財団では2010年12月、学識経験者による「中部大都市圏研究会」（座長：名古屋大学大学院環境学研究科黒田達朗教授）を設置し、国が検討を進めている新たな大都市圏制度の内容を精査するとともに、自治体関係者も交えて活発な意見交換を行った。今後は大都市圏として圏域設定のあり方や都市に求められる諸機能の整理とその向上に係る政策手段のあり方などについて、多角的な検討を行う。

(3) 中部圏における多文化共生のあり方に関する調査研究

中部圏では、製造業で働く外国人労働者が多く、各地域で外国籍住民との共生が重要なテーマとなっている。

当財団では2009年度に設置した「中部圏多文化共生先進圏づくり研究会」（座長：名古屋産業大学名誉学長伊藤達雄氏）を中心に、多文化が共生する地域のあり方の調査研究を行い、その結果を「調査季報」に掲載し公表している。

2010年度は外国籍住民との共生に関して、「現状分析」「法制度のあり方」「地域防災」等の報告を行った。2011年度は、外国籍住民に対する「教育」にスポットを当てて調査研究を実施する。

(4) 中部産業レポート Vol. 7 「LED関連産業」

次世代光源として高い成長が期待される LED は、既に信号機やイルミネーション、液晶ディスプレイなどで活用されており、昨年からは家庭用 LED 電球が広く普及しはじめ、今後は一般照明用に加え、液晶テレビや車両用光源、更には農漁業分野、情報通信分野、交通運輸分野、医療分野にも用途が広がりつつある。

こうした LED 関連産業に焦点を当て、LED 研究者、照明デザイナー、経済記者などの有識者からなる CIRAC LED 研究会（座長：三重大学大学院工学研究科教授 平松和政氏）を設置し、LED 関連産業の分野別動向や将来展望、中部地域企業の取り組み事例、注目技術等を調査し、その全体像を分かり易く説明するとともに、LED 産業の振興に向けての課題及び提言を取りまとめた報告書「中部産業レポート VOL. 7『LED 関連産業』」を 2010 年 12 月に刊行した。また、発刊に合わせて LED シンポジウムを開催した。

(5) 中部圏における道路資産の維持管理に関する課題と今後の展望に関する調査研究

高度経済成長に伴って集中的に整備が進められてきた道路について、いわゆる「高経年化」への対応が大きな課題となってきた。

こうした課題に関して先進的な取り組みを行っている事例を調査するとともに、中部 9 県下において自治体や建設業者へのアンケート、ヒアリング調査を実施し、現在の道路資産を将来にわたって維持していくための方策を検討し、2011 年 4 月、報告書「中部圏における道路資産の維持管理に関する課題と今後の展望～組織間連携の強化による効果的・効率的維持管理の実現に向けて～」を刊行し公表した。

(6) 構造変化の中における大学教育のあり方～教養教育充実の観点から～

変化の激しい社会の中で、確かな基礎学力の上に広い視野と柔軟な発想、適応力を備えた人材の育成が求められている。

こうした認識のもと、当財団の賛助会員企業および社団法人中部経済連合会の会員企業の経営者を対象に、大学の新規卒業者採用の状況・充足度、教養教育と職業・専門教育のあり方等を切り口としたアンケート調査を行うとともに、教養教育の実施状況と問題点、単位互換制度等大学間連携の取り組みの現状などを調査するため、国内の 9 大学および 6 コンソーシアムへのヒアリング調査を実施した。

これらの調査結果に加えて各種文献調査を行い、今後大学はどのような姿を目指していくべきかを提言する報告書を作成し、2011 年 7 月を目途に取りまとめる。

(7) 中部圏における映画やドラマのロケ地観光の現状と活用策に関する調査研究

地域社会の活性化を目的として、映画やテレビドラマなどのロケを活用した

コンテンツツーリズム事業が、多くの自治体や地域団体が中心となって行われている。今回の研究では、ロケ等により、メディアの力を借りて地域の情報やイメージの発信を行った地域がその効果をどう継続させ、地域の活性化につなげようとしているかに焦点を当てて調査を実施した。その結果は調査季報「中部圏研究」に掲載していく。

(8) 中部圏プロジェクトの収集とマップ等の作成

中部圏で進められている各種プロジェクトに関するデータを収集して冊子としてまとめ、2011年4月に「中部プロジェクト2011」（「中部プロジェクト2003」以来8年ぶり）を発刊するとともに、例年通り「中部プロジェクトマップ」の制作も行った。

(9) アンケート調査

2010年度は、2008年のリーマンショックが、地域住民の暮らしに対する意識にどのような影響を与えたか、という観点から、「中部圏の暮らしに関するアンケート」と題し、インターネットを介して実施した。その調査結果をもとに、2003年、2008年に実施した同調査と比較し、暮らしの満足度に対する地域の人々の意識とその変化を調査・分析し、2010年9月に公表した。

2. 中部広域圏の産業の活性化に係るプロジェクト発掘及び事業可能性に関する調査研究

(1) 外国人観光客向け「観光品質基準（日本旅館編）」の実証研究

岐阜県高山市および三重県鳥羽市・志摩市の日本旅館7軒を対象に、2009年度に策定した「観光品質基準（日本旅館編）」を試行適用して、品質基準の妥当性を評価するための調査を実施した。旅館側の自己評価、調査員（CIRACおよび協力会社）による現地評価を行った後、評価結果の摺り合せ・意見交換を実施した結果、今回策定した品質基準について、一定の妥当性・有用性が確認できた。

今回の調査を通じて明らかになった、品質基準としての改善すべき課題や情報公開にあたり留意すべき点等を整理した調査研究報告書を作成した。2011年度は、これをベースに、観光品質基準（日本旅館編）の修正版を作成するべく、継続して調査研究を行う。

(2) 新たな農山村宿泊スタイルの提案による地域活性化

農山村の活性化の方策として、「農家民宿」事業に着目し、西欧に見られるB&B（Bed & Breakfast）を参考事例として、農家にとってできるだけ負担の少ない農家民宿のあり方や地域全体での取り組みの必要性を検討した。本調査

は、農家民宿の利用に関して実施した3大都市圏に在住する約3000人を対象としたアンケート調査（2011年2月）の結果とともに、検討内容を2011年6月の調査季報「中部圏研究」に掲載・公表した。

（3）LEDを活用した名古屋市栄地区の地域活性化

愛知県は、世界で初めてGaN系pn接合型青色LEDを開発した赤崎教授（現名城大学終身教授）や世界で唯一素子から最終製品まで一貫生産している豊田合成(株)を擁し、LED発祥の地であるとも言える。

2010年度は、2010年12月に実施された名古屋開府400年祭のフィナーレ“NAGOYAアカリナイト”の中で、当財団は名古屋工業大学大学院伊藤孝紀研究室との協働により、LEDとアートを組み合わせ、産業振興に繋がる市民参加型の継続的なイベントとして「学びの広場 アカリアカデミー」を企画運営した。アカリアカデミーでは、親子LED工作教室、LEDアカリフェス、LEDエシカル&フェアトレード・ファッションショー、LEDトークナイトなどを名古屋テレビ塔タワースクエアで実施したほか、LEDシャンデリア（LED球3万個）をテレビ塔直下のタワー橋脚間に設置し、光の演出により好評を博した。

（4）第5回NPO協働アイデアコンテストの開催

5年目を迎えた今回は、中部9県のNPO中間支援センターとの連携を密にして広報活動を展開した結果、これまでで最多となる26団体からの応募（13団体は愛知県外からの応募）があった。2010年12月17日に開催されたコンテストでは、予備審査を通過した5団体によるプレゼンテーションと審査が行われ、滋賀県近江八幡市から参加したNPO法人「近江八幡市中間支援センター」の「外来魚を活用した沖島よそものコロッケの開発・販売」がグランプリを受賞し、助成金20万円を贈呈した。

協働先のNPO法人パートナーシップサポートセンター（PSC）による事前のプレゼン指導などにより、提案内容の質的向上が見られ、コンテスト参加者の評価も高まりつつある。

3. 中部広域圏の産業の活性化に係るプロジェクトに対する支援

（1）第9回愛知中学生ロボットコンテストの開催

三河地区技術家庭科の先生方の集まりである「コイルの会」と共催で2010年10月10日に愛知県内の中学生を対象としたロボットコンテストを実施した。32校113チームの中学生が参加し、「より高く、より多く！」と「あの壁を越えろ！」の2種目で競技を行った。

なお、本コンテストは2010年度をもって、一旦休止することとなった。

（2）中部グリーン電力基金運営事業

自然エネルギー（太陽光発電設備、環境教育用発電設備）の普及促進を図るため、2010年度は太陽光発電設備9件（221.6kW）と環境教育用発電設備4件（1.522kW）の助成先を決定し、助成契約を締結した。

助成金に関しては、2010年度中に完工し、助成条件に適合した11件（229.44kW）の太陽光発電設備と1件（0.286kW）の環境教育用発電設備に対し合計997万2千円を支払った。

また、2011年度の助成活動に向けて、中部グリーン電力基金参加者からの寄付金と中部電力様からのマッチングギフト等をもとに、総額1,980万円の積み立てを行った。

（3）中部フィールドアライアンス研究会の支援

中部産業活性化センターが2008年度まで3年間実施して終了した「ビジネスプロデューサー養成講座」の受講生を中心に結成された「中部フィールドアライアンス研究会」の活動を、引き続き事務局として支援した。2010年度は研究会を3回開催し、名古屋市中区錦二丁目まちづくりを中心にアライアンス事業を検討した。

4. 中部広域圏の産業の活性化及び整備に必要な諸施策に関する政策提言・普及啓発

（1）講演会・シンポジウム等の開催

経済社会の変化の幅・スピードがますます加速する中、今後の企業活動の方向性を示唆いただける各界の著名な講師をお招きし、CIRAC定例講演会を3回、シンポジウム・中部圏学を1回、それぞれ開催した。

① 第6回（2010年4月9日）シンポジウム・中部圏学 開催地：名古屋市

テーマ：「中部圏の金融 ～地域活性化に果たす役割～」

講師：名古屋大学大学院経済学研究科教授総長補佐	家森 信善 氏
名古屋証券取引所常務取締役	高松 明 氏
日本銀行名古屋支店営業金融グループ長	岡 俊太郎 氏
信州大学経済学部教授	青木 達彦 氏

② 第38回（2010年9月27日）CIRAC定例講演会 開催地：名古屋市

テーマ：「世界の構造転換と中部圏活性化の在り方」

講師：(財)日本総合研究所 理事長 寺島 実郎 氏

③ 第39回（2010年11月12日）CIRAC定例講演会 開催地：名古屋市

テーマ：「これからの社会に求められる教養教育

～国際教養大学の挑戦～」

講 師：公立大学法人国際教養大学理事長・学長 中嶋 嶺雄 氏

- ④ 第40回（2011年2月8日）CIRAC定例講演会 開催地：名古屋市
テーマ：「日本経済のゆくえ」

講 師：早稲田大学大学院ファイナンス研究科教授 野口 悠紀雄 氏

（2）ワークショップ「北陸の次世代産業を考える」懇談会の開催

産業振興のために産学官の一層の交流をはかるべく、北陸地域の産学官の関係者による懇談会を、2010年11月に財団法人北陸産業活性化センターと共同開催した。

テーマ：「北陸の次世代産業を考える」

参加者：北陸3県の代表企業6社の経営層、北陸3県および中部経済産業局北陸支局の産学官連携責任者、金沢大学産官学連携担当者

（3）先進地事例視察会の開催

2010年11月10日に、以下のとおり実施した。

視察先：①京セラ(株)滋賀八日市工場

「八日市工場の概要説明および生産ライン視察」

②三井アウトレットパーク滋賀竜王

「施設の概要説明および視察」

③信楽まちなか芸術祭（信楽陶芸トリエンナーレ2010）

「概要説明および視察」

（4）CIRACフォーラムの開催

産業経済、地域開発、国際化などの幅広い分野からタイムリーなテーマを取り上げ、講演とメンバー会員による情報交換を行った。（年10回）

- ① 第220回（2010年4月14日）

テーマ：「研究開発型中小企業のこだわり

～超音波技術に特化した経営戦略～」

講 師：本多電子株式会社 代表取締役社長 本多 洋介 氏

- ② 第221回（2010年5月26日）

テーマ：「ミツバチの現状と未来」

講 師：名古屋大学大学院生命農学研究科 准教授 門脇 辰彦 氏

- ③ 第222回（2010年6月30日）

テーマ：「<ナゴヤグランドクロス>都心再生への物語りアプローチ

ーグローバル地域主導のまち育ての可能性ー」

講 師：愛知産業大学大学院教授 兼 NPO 法人まちの縁側育くみ隊
代表理事 延藤 安弘 氏

- ④ 第223回（2010年7月14日）

テーマ：「多文化共生をめぐるいくつかのキーワードと日本の状況」

講 師：名古屋大学大学院環境学研究科 教授 岡本 耕平 氏

- ⑤ 第 224 回 (2010 年 9 月 29 日)
 テーマ:「工作機械動向と M a z a k の開発戦略」
 講 師:ヤマザキマザックオプトニクス(株) 専務取締役 水門 正良 氏
- ⑥ 第 225 回 (2010 年 10 月 26 日)
 テーマ:「近年の豪雨災害と災害情報をめぐる課題」
 講 師:静岡大学防災総合センター副センター長 准教授 牛山 素行 氏
- ⑦ 第 226 回 (2010 年 11 月 17 日)
 テーマ:「名古屋市科学館理工館・天文館改修について」
 講 師:名古屋市科学館 新館整備担当 主幹 杉浦 金之 氏
 主査 横井 智雄 氏
- ⑧ 第 227 回 (2011 年 1 月 19 日)
 テーマ:「JAXA における飛行実証技術とジェット FTB の導入」
 講 師:(独)宇宙航空研究開発機構
 研究開発本部 飛行技術研究センター長 柳原 正明 氏
- ⑨ 第 228 回 (2011 年 2 月 23 日)
 テーマ:「次世代電動車とスマートグリッドの取り組み」
 講 師:トヨタ自動車株式会社
 技術統括部 技術戦略室 部長 高橋 剛 氏
 総合企画部 BR 次世代クルマ社会企画推進 G 部長 岸 賢二 氏
- ⑩ 第 229 回 (2011 年 3 月 23 日)
 テーマ:「農山漁村民泊と規制緩和型農林漁家民宿にみる
 小規模グリーン・ツーリズム政策」
 講 師:(財)都市農山漁村交流活性化機構
 グリーン・ツーリズム部 次長 中尾 誠二 氏

(5) 地域振興ゼミナールの開催

昇 秀樹教授(名城大学都市情報学部)を専任教官とし、中堅行政担当者との勉強会・情報交換会を4回開催した。

- ① 第 27 回 (2010 年 6 月 11 日)
 講演テーマ:「環境分野での機会を活かした地域産業振興の方向性について」
 「新世代電気自動車」
- ② 第 28 回 (2010 年 9 月 8 日~9 日)
 富山県富山市視察:「富山市が取り組むコンパクトなまちづくり
 ~LRT と電気バスを中心に~」
 「低床コミュニティ電気バスの開発と実証運行の取り組み」
 富山県宇奈月町視察:「でんき宇奈月プロジェクトの概要と今後の展開」
- ③ 第 29 回 (2010 年 12 月 9 日)
 岐阜県美濃加茂市視察:ヤマザキマザック関連会社 地下工場視察
- ④ 第 30 回 (2011 年 3 月 19 日)
 講演テーマ:「エコで稼ぐ企業」
 「豊田メタルの自動車リサイクル事業について」

5. 中部広域圏の産業の活性化及び整備に係る情報収集・提供並びに図書・資料の収集、公開及び刊行

(1) 機関誌「CIRAC」の発行

中部地域にゆかりのある方や話題性のある著名なゲストを迎え、中部地域の産業活性化のヒントを探る「高井 一の中部に活!」、当財団の活動内容を紹介する「CIRAC FLASH」、当地域において優れた技術力でシェアトップもしくはオンリーワン企業として活躍する会社を紹介する「キラッ!と輝く中部の企業」、当地域にある明治から昭和初期にかけて日本の近代化に貢献してきた建物・構築物を紹介する「中部の近代化遺産を訪ねて」を掲載し、年4回(4, 7, 10, 1月)発行した。

[中部に活! ゲスト]

- ・2010年4月 東京大学大学院教授 石川幹子氏
- ・2010年7月 エコロジー空間プロデューサー ジョン・ギャスライト氏
- ・2010年10月 東海旅客鉄道株式会社副会長 松本正之氏
- ・2011年1月 名古屋造形大学学長 高北幸矢氏

(2) 調査季報「中部圏研究」の発行

当財団の調査研究内容や講演会等の活動記録の発表に加え、大学の先生方からの寄稿も掲載。特集記事として中部圏の大学の個性的な取り組みを紹介する「中部圏の大学の魅力を探る」、「明かり」にスポットを当てた「あかりと文化」等を連載し、年4回(6, 9, 12, 3月)発行した。

(3) 「大都市圏実務必携」の発行

大都市圏整備施策の普及・促進に寄与するため、計画行政に関わる利用者の便に供するデータ集を刊行し、行政を中心とする関係先に配布する予定であったが、データ提供元の国土交通省から今年度より元データが提供されない旨連絡があったため、刊行を取りやめた。

(4) ホームページ・メールマガジンによる情報提供

ホームページトップ画面にある「CIRAC ニュース」「CIRAC トピックス」および「CIRAC メールマガジン」を随時更新するとともに、各コンテンツについても常時見直しを行い、最新情報の発信に心がけた。

6. 全各号に掲げるものの他、本財団の目的を達成するために必要な事業

(1) 国連センター協力会事務局

国連地域開発センターが実施する事業のうち、セミナー、シンポジウムの開催、情報収集・提供など、中部圏の健全な発展と国際親善に資するための事業に対し、支援を行った。

(2) 日本計画行政学会中部支部事務局

事務局として日頃の会員情報の整備、会報誌や案内の発送などの業務の他、下記行事の開催をサポートした。

①2010年7月30日 中部支部総会・支部大会

②2011年1月31日 研修集会

Ⅱ．役員会及び庶務事項

1．理事会・評議員会の開催

(1) 理事会

① 第50回理事会

2010年6月10日 ウェスティンナゴヤキャッスル 2階 銀の間

第1号議案 2010年3月期の事業報告書(案)および決算報告書(案)に関する件

第2号議案 役付役員選任(案)に関する件

第3号議案 評議員選任(案)に関する件

第4号議案 顧問選任(案)に関する件

第5号議案 事務局長選任(案)に関する件

② 第51回理事会(臨時)

2010年10月13日 アイリス愛知 2階 コスモス

第1号議案 財団法人中部空港調査会からの統合の申し入れとこれに伴う検討の開始について(案)

③ 第52回理事会(臨時)

2011年2月3日 名古屋銀行協会 4階 403号会議室

第1号議案 財団法人中部空港調査会の解散に伴う残余財産受け入れの応諾と「基本契約書」及び「覚書」の締結について

④ 第53回理事会

2011年3月23日 名古屋観光ホテル 2階 曙西の間

第1号議案 運営強化資金取り崩しおよび繰越収支差額充当による中部圏統計分析事業の研究内容拡充に関する件

第2号議案 2011年度の事業計画書(案)および収支予算書(案)に関する件

第3号議案 評議員選任(案)に関する件

第4号議案 顧問選任(案)に関する件

第5号議案 参与選任(案)に関する件

第6号議案 新公益法人制度における移行方針について

第7号議案 最初の評議員の選定に関する件

第8号議案 「最初の評議員選定委員会」の委員選任(案)に関する件

(2) 評議員会

① 第 49 回評議員会

2010 年 6 月 10 日 ウェスティンナゴヤキャッスル 2 階 銀の間

第 1 号議案 2010 年 3 月期の事業報告書(案)および決算報告書(案)に関する件

第 2 号議案 役員選任(案)に関する件

② 第 50 回評議員会(臨時)

2010 年 10 月 13 日 アイリス愛知 2 階 コスモス

第 1 号議案 財団法人中部空港調査会からの統合の申し入れとこれに伴う検討の開始について(案)

③ 第 51 回評議員会(臨時)

2011 年 2 月 3 日 名古屋銀行協会 4 階 403 号会議室

第 1 号議案 財団法人中部空港調査会の解散に伴う残余財産受け入れの応諾と「基本契約書」及び「覚書」の締結について

④ 第 52 回評議員会

2011 年 3 月 23 日 名古屋観光ホテル 2 階 曙西の間

第 1 号議案 運営強化資金取り崩しおよび繰越収支差額充当による中部圏統計分析事業の研究内容拡充に関する件

第 2 号議案 2011 年度の事業計画書(案)および収支予算書(案)に関する件

第 3 号議案 役員選任(案)に関する件

第 4 号議案 新公益法人制度における移行方針について

第 5 号議案 最初の評議員の選定に関する件

第 6 号議案 「最初の評議員選定委員会」の委員選任(案)に関する件

2. 常設委員会の開催

(1) 企画委員会

第 53 回企画委員会 2010 年 5 月 3 日

第 1 号議案 2010 年 3 月期事業報告書(案)および決算報告書(案)に関する件

第 2 号議案 役員選任(案)に関する件

第 3 号議案 役付役員選任(案)に関する件

第 4 号議案 評議員選任(案)に関する件

第 5 号議案 顧問選任(案)に関する件

第 6 号議案 事務局長選任(案)に関する件

第 54 回企画委員会(臨時) 2010 年 9 月 29 日

第 1 号議案 財団法人中部空港調査会からの統合の申し入れとこれに伴う検討の開始について(案)

第 55 回企画委員会 2011 年 3 月 4 日

第 1 号議案 運営強化資金取り崩しおよび繰越収支差額充当による中部圏統計分析事業の研究内容拡充に関する件

第 2 号議案 2011 年度の事業計画書(案)および収支予算書(案)に関する件

第 3 号議案 役員選任(案)に関する件

第 4 号議案 評議員選任(案)に関する件

第 5 号議案 顧問選任(案)に関する件

第 6 号議案 参与選任(案)に関する件

第 7 号議案 新公益法人制度における移行方針について

第 8 号議案 最初の評議員の選定に関する件

第 9 号議案 「最初の評議員選定委員会」の委員選任(案)に関する件

(2) 中部グリーン電力基金運営委員会

第 21 回中部グリーン電力基金運営委員会 2010 年 5 月 24 日

第 1 号議案 2009 年度事業報告(案)及び決算報告(案)について

第 2 号議案 2010 年度助成先(案)について

第 22 回中部グリーン電力基金運営委員会 2011 年 3 月 1 日

第 1 号議案 2011 年度事業計画(案)及び収支予算(案)について

第 2 号議案 2011 年度中部グリーン電力基金助成募集要項(案)について

3. 非常設委員会の開催

第 1 回地域の将来像とシンクタンクの役割を考える特別委員会 2010 年 5 月 25 日

・本委員会開催の目的と背景、委員会の進め方について

第 2 回地域の将来像とシンクタンクの役割を考える特別委員会 2010 年 7 月 22 日

・中部開発センターと中部産業活性化センターが果たしてきた役割について
・国における大都市圏制度に係る議論の方向性について
・前回の会議結果の報告

第 3 回地域の将来像とシンクタンクの役割を考える特別委員会 2010 年 9 月 29 日

・これまでの議論の整理と現在の CIRAC の体制

- ・ これからの研究テーマと推進体制の整備について
- ・ 中部広域経済圏を対象とした経済分析ツールの開発と応用研究を推進するための体制強化について

4. 事務局の職員異動

2010年6月10日付で、事務局長に草野潔人（三菱東京UFJ銀行）が就任した。

2010年6月1日付で、経済分析・応用チーム 野崎道哉（プロパー）が着任した。

2010年7月1日付で、地域整備部 服部健（中部電力）が荒川由章（同）に交代した。

2010年8月31日付で、産業振興部 菅本幹二（トヨタ自動車）が退職した。

2011年1月1日付で、産業振興部 佐藤啓介（トヨタ自動車）が着任した。

5. 登記事項

- （1）2010年6月22日 理事の変更登記（6月10日）
- （2）2011年3月29日 理事の変更登記（3月23日）

6. 届出事項

経済産業大臣および国土交通大臣宛に、下記書類を提出した。

- （1）2010年6月30日 「2010年3月期事業報告書および決算報告書」
「新旧役員名簿」「登記簿謄本」「略歴書(写)」
「理事就任承諾書(写)」
「第50回理事会議事録(写)」
「第49回評議員会議事録(写)」
- （2）2011年4月1日 「2011年度事業計画書および収支予算書」
「新旧役員名簿」「登記簿謄本」「略歴書(写)」
「理事就任承諾書(写)」
「第53回理事会議事録(写)」
「第52回評議員会議事録(写)」

Ⅲ. 法人の概況

1. 設立年月日

1987年11月18日

2. 寄付行為に定める目的

本財団は、中部広域圏における既存産業の高度化、新産業の開拓及び最先端技術の開発等（以下「産業の活性化」という。）に関する調査研究並びに中部広域圏の整備に関する基本的な研究を行うことにより、中部広域圏の将来図を国民経済的視野のもとに確立し、もって、中部広域圏、更には我が国経済社会の発展に寄与することを目的とする。

3. 寄付行為に定める事業内容

- (1) 中部広域圏の産業の活性化及び整備に関する調査研究
- (2) 中部広域圏の産業の活性化に係るプロジェクト発掘及び事業化可能性に関する調査研究
- (3) 中部広域圏の産業の活性化に係るプロジェクトに対する支援
- (4) 中部広域圏の産業の活性化及び整備に必要な諸施策に関する政策提言・普及啓発
- (5) 中部広域圏の産業の活性化及び整備に係る情報収集・提供並びに図書・資料等の収集、公開及び刊行
- (6) 前各号に掲げるもののほか、本財団の目的を達成するために必要な事業

4. 所管官庁に関する事項

経済産業省ならびに国土交通省

5. 会員の状況

当期末賛助会員数 183社

6. 主たる事務所の状況

名古屋市中区栄二丁目1番1号 日土地名古屋ビル15階

7. 役員等に関する事項

役 職	氏 名	常勤・非常勤	担当職務・現職
会 長	川口 文夫	非常勤	中部電力(株)相談役
副会長	古 角 保	非常勤	(株)三菱東京UFJ銀行副頭取
副会長	水野耕太郎	非常勤	東邦ガス(株)代表取締役会長
副会長	小 澤 哲	非常勤	トヨタ自動車(株)代表取締役副社長
副会長	木下栄一郎	非常勤	名古屋鉄道(株)代表取締役会長
副会長	深 山 彬	非常勤	石川県商工会議所連合会会頭
副会長	加藤 久雄	非常勤	(社)長野県商工会議所連合会会長
専務理事	小林 宏之	常 勤	業務総括
常務理事	草野 潔人	常 勤	業務総括補佐
理 事	岩田 義文	非常勤	イビデン(株)代表取締役会長
理 事	大谷僖美治	非常勤	長島観光開発(株)取締役会長
理 事	岡田 邦彦	非常勤	J. フロントリテイリング(株)相談役
理 事	岡谷 篤一	非常勤	岡谷鋼機(株)取締役社長
理 事	奥田 卓廣	非常勤	三重交通ホールディングス(株)取締役相談役
理 事	小澤 正俊	非常勤	(財)中部生産性本部会長
理 事	勝山 憲夫	非常勤	新日本製鐵(株)常務執行役員名古屋製鐵所長
理 事	加藤 倫朗	非常勤	日本特殊陶業(株)代表取締役社長
理 事	神野 信郎	非常勤	中部ガス(株)相談役
理 事	小林 長久	非常勤	日本トランスシティ(株)代表取締役社長
理 事	滝 茂 夫	非常勤	中部経済同友会代表幹事
理 事	内藤 明人	非常勤	リンナイ(株)代表取締役会長
理 事	永 原 功	非常勤	北陸経済連合会会長

理 事	菱沼 捷二	非常勤	(社)石川県経営者協会会長
理 事	深谷 紘一	非常勤	(株)デンソー取締役会長
理 事	松 下 雋	非常勤	日本ガイシ(株)取締役社長
理 事	山内 拓男	非常勤	(社)中部経済連合会専務理事
理 事	山田 文男	非常勤	矢作建設工業(株)代表取締役社長
理 事	山田 佳臣	非常勤	東海旅客鉄道(株)代表取締役社長
監 事	上 田 豪	非常勤	(株)百五銀行取締役頭取
監 事	谷川 憲三	非常勤	(株)第三銀行取締役会長
監 事	土 屋 嶮	非常勤	(株)大垣共立銀行取締役頭取

○ 「担当職務・現職」欄は、常勤理事は担当職務、非常勤理事は現職を記載。